

梅之木通信

【縄文住居をつくる会】

第8号 2019.9.23 発行

柱を立て、少し縄文住居が見えてきました

土を掘ったり、また埋め戻したりと、地面を平らにするのもなかなか難しいことがよく判りました。一台の重機で、掘って、均して、固めて、、と簡単に終わってしまう作業も、なんと人の目の不確かな事！傾斜地にあるため、平らにしたつもりでもまだ20cmほどの高低差があったり、遺跡保護のために敷かれた砂の層の発見に戸惑ったり、苦難の道でしたが、皆で意見を出して良い方法を見出していく楽しい時間でもありました。

掘られた縦穴に柱用の木材を差し込んで立ててみると、縄文住居の骨格の一部が現れ、今までの苦労も一旦忘れて感慨ひとしおでした。

★ 毎回作業が終わる度に、『これにて完了!』と喜んでいたのですが、振り返ってみるとずいぶん深さにずいぶん違いがあることがよく判ります。

ぬか喜びと、“早く単純作業は終わりにしたいなあ”、というゆるい姿勢に反省しきりです。

穴の周りに杭を打ち込み、細い枝を差し込んで壁代わりの土止めも施してやっと本当に穴掘りが終了。



9月6日



9月7日



9月14日

★ 柱の土に埋め込む部分に焼き入れするため、まず火おこしに挑戦



① 杉の板を使って木の枝を錐にして、まずは錐粉に火を熾します

② 錐粉に着いた火を消さないようにしながらモグサに移します





③ モグサをわらで包んで火を大きくしていきます

⑤ 我々も挑戦しますがなかなか難しく、火が大きくなる前に消えてしまいました

④ 小枝を加えて焚火にしていきます



★ 土に埋まる柱の下部を焼いて腐り止めの処理をします



丸太を動かしてまんべんなく焦がします



熾火で焼きジャガイモ



★ 柱の長さや梁を乗せて安定させるために長さや太さを加工します



小枝で穴を埋めて仮に柱を立ててみました

梁を乗せたら、すっかり住居の雰囲気が出てきました



- 【お知らせ】 ◆今まであまり作業に参加できなかった方も9月29日の『ふるさと倶楽部まつり』にはぜひご参加ください。
- ◆現在の進捗具合では10月12日（土曜日）に棟上げの儀式をおこなえる予定です。地鎮祭の時と同様、どのような儀式になるか想像できませんが楽しみです。